

平成12年腎移植報告

佐藤 滋、飯沼昌宏、柿沼秀秋、立木 裕、三品睦輝、光森健二、赤尾利弥、
下田直威、佐藤一成、羽渕友則、加藤哲郎
秋田大学医学部泌尿器科

Report of Renal Transplantation in 2000

Shigeru Satoh, Masahiro Iinuma, Hideaki Kakinuma, Yutaka Tachiki,
Mutsuki Mishina, Kenji Mitsumori, Toshiya Akao, Naotake Shimoda,
Kazunari Sato, Tomonori Habuchi, Tetsuro Kato

Department of Urology, Akita University School of Medicine

1998年8例、1999年10例の腎移植患者の紹介病院名、年齢、性、移植日、99年12月末の血清クレアチニン（Cr）値、および現在の状況を表1、2に示す。98年の第1例目は慢性拒絶のため次第に腎機能は低下しているが、18例すべて外来通院中で、移植腎は生着中である。98年の2例目は盛岡に在住し、5例目の女性は移植後結婚し山梨に在住している。99年の小児例は移植後サイトメガルウイルス（CMV）感染のため、半年間の入院が必要であったが、その後復学し元気に通学している。また県内初の献腎移植例も仕事に復帰し、透析前とほぼ同等の就業状態にある。

紹介病院	年齢	性	移植日	Cr (mg/dl)	備考
1 秋大3内科	29	M	98/2/17	5.4	慢性拒絶、貧血
2 盛岡三愛	37	F	98/3/17	1.3	社会復帰、盛岡在住
3 平鹿総合	21	M	98/5/19	1.9	社会復帰
4 市立秋田	40	M	98/6/30	1.3	肺炎完治、社会復帰
5 本荘第一	26	F	98/7/28	1.4	結婚、山梨在住
6 秋田日赤	43	F	98/10/6	0.8	主婦業専念
7 松田クリ	50	F	98/11/17	0.9	社会復帰
8 秋田組合	37	M	98/12/8	1.4	社会復帰

表1 '98年腎移植例の経過

紹介病院	年齢	性	移植日	Cr (mg/dl)	備考
9 横手公立	48	M	99/1/26	1.5	社会復帰
10 秋田組合	35	M	99/6/1	1.8	社会復帰
11 由利組合	31	F	99/6/15	1.1	社会復帰
12 秋大小児	9	M	99/7/13	0.8	復学
13 仙北組合	50	F	99/9/7	0.8	社会復帰
14 横手公立	25	M	99/9/21	2.5	社会復帰
15 秋田組合	51	M	99/10/19	1.9	社会復帰
16 県南在住	27	M	99/11/2	1.3	社会復帰
17 秋田日赤	25	F	99/11/16	1.6	結婚
18 平鹿総合	41	M	99/12/14	1.5	未就業

表2 '99年腎移植例の経過

さて、2000年に行われた腎移植は7例であった（表3）。このなかで特筆すべきは2月におこなった夫婦間移植である。夫婦間はHLAが一致せず、一般的にその移植成績が懸念されている。しかし、GjertsonとCeckelは¹⁾夫婦間移植が好成績であることを報告している。すなわち1987年から1998年に米国で施行した1,765件の夫婦間腎移植、986件の非血縁者間（従兄弟や祖父母、叔父叔母、友人を含む）、27,535件の血縁者間、および86,953件の献腎移植において、夫婦間と非血縁者間の5年生着率は各々75%と72%と差がなく、これは親子間の5年生着率74%と差がないとしている。また献腎移植の5年生着率は62%であり、夫婦間や非血縁者間腎移植は献腎移植より成績が良く、米国では最近急速に夫婦間や非血縁者間腎移植が増加していると報告している。私達

の夫婦間移植例も、血液型不一致 (O→A) でHLA-DRがひとつだけ偶然に一致しているだけであったが、一度の拒絶反応もなく退院し、現在も元気に外来に通院中である。このことに勇気づけられ、夫婦間移植を啓蒙し現在4組が予定にはいっている。

紹介病院	年齢	性	移植日	ドナー	Cr (mg/dl)	備考
19 松田クリ	48	F	00/2/22	夫 (49)	1.3	夫婦間
20 秋大3内	29	M	00/3/14	父 (58)	1.5	
21 秋大3内	19	F	00/7/11	母 (48)	3.4	C M V
22 本荘第一	64	F	00/9/19	弟 (53)	0.9	P T D M
23 秋田市立	48	M	00/10/31	姉 (50)	1.6	尿量少
24 平鹿総合	27	F	00/11/28	父 (58)	1.6	
25 秋田市立	44	M	00/12/12	母 (70)	1.6	肝癌術後

表3 '00年腎移植

当科での生体腎移植成績や献腎移植の経験から、県内の献腎移植希望者が移植希望施設を選択するにあたり、秋田大学を指定する方が増加してきた。97年当初1名だけであった秋田大学希望者は、2000年9月には63名に増加し、現在さらに増加中である(図1)。移植の最大の問題は移植後の経過観察にある。他県の施設で移植を受けた多くの患者は、移植後も毎月1~2回他県の施設に通院している。これは経済的、精神身体的にも患者や家族に負担がかかる。これを解決するためにも、現在他県施設を希望している登録者が、秋田大学に希望を変更することを待ち望んでいる。

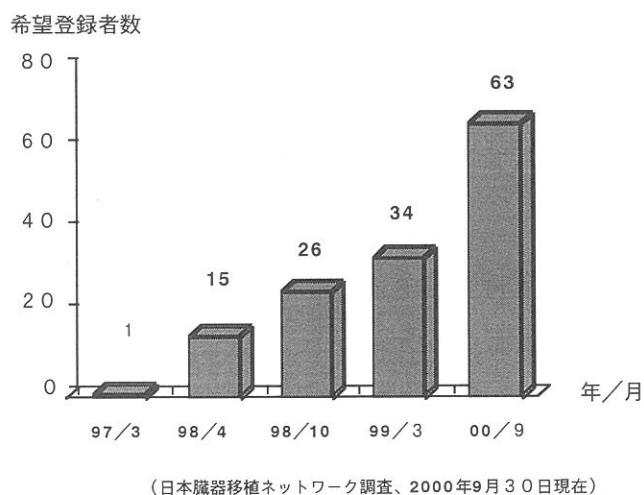


図1 秋田大学を希望施設とする移植登録者数

参考文献

- 1) Gjertson DW, Cecka JM: Living unrelated donor kidney transplantation. Kidney Int 58 : 491-499, 2000